



思いやり

おも

中西 進
なかにし すずむ

今日、タクシーに乗ったら、とても話し好きな運転手だった。いろいろと話しかけてくる。その途中で道路のことにあった。

「ああ、あの道ですね。ヒルキンに、よく通りましたよ」と運転手。

「うん?」、一瞬私は彼が何をいっているのか、理解できなかった。とくに「ヒルキン」とは。仕方ない。聞き返してみた。「何?」

「今はヤキンですが、ヒルキンは道が混んでますからね」

それでやっと話が通じた。「昼勤」と彼は言っているのである。交代制で昼間の勤務と夜間の勤務とがあるらしい。それにしてもことばのルールから言えば、ヤキンの反対はチュウキンのはずだ。会話ことばでは夜間に対して昼間が対応するから、このように整わないことになった。

当事者には何の疑問もおこらないのだろうが、部外者にはなかなかむづかしい。

じつは同じ経験をつい先日しました。一人の事務職員が「私もチョコホーにひっかかったことがあります」と言った。

さあ、私には「チョコホー」がわからない。いや、わからない前に聞きとれない。はたして「チョコホー」といったのか「チョコ棒」といったのか、直法? 地合法? と頭の中でことばがぐるぐる回転する。

「え、何ですって」と聞き返して「地方公務員法」のことだとやっとわかった。

こうしたことばは、いわばそれぞれの仕事世界の方言とっていい。それを共通語と誤解することが、人間には起こりがちなのだ。

しかし私は、これを仕方ないとは考えない。ことばは相手に受け取られて初めて存在したことになるのであって、口にすればもう自明のこととしてことばが存在するわけではない。考えてみれば、勝手にしゃべっているだけで、まったく相手に伝わっていない、「死骸ことば」の、何と多いことか。

それでは一体、何がことばを死骸でなくするのか。たった一つ、相手への思いやりだと私は思う。わかってももらえるかどうか、相手の事情を十分思いやったことばは、わかりやすい。すぐ受け取ってもらえる。やさしいことばだ。反対に、自分勝手に決め込んだことばは、暴力的なことばだ。あらゆる場合に、ことばを成り立たせる条件は、たった一つ、思いやりなのである。

(国文学者・京都市立芸術大学学長)
こくぶんがくしや きょうと しりつげいじゅつだいがくがくしやう

■ 表紙エッセイ 思いやり 中西 進 (国文学者)	
■ 海外の日本語教育の現状 3 『2003年海外日本語教育機関調査』結果速報 日本語事業部企画調整課	
■ 新聞・雑誌から見る現代日本 第18回 中・上級 5 平成の海老蔵誕生	
■ 写真で見る日本人の生活 初・中級 8 「このたびは」・・・なくなる	
■ 授業のヒント 10 ビデオ教材の使い方 (2)	
■ 本ばこ (新刊教材・図書紹介) 12	
■ 関西国際センター制作教材 14 初級からの日本語スピーチ 一 国・文化・社会についてまとめた話をするためにー	
■ 文法をやさしく 第9回 16 Vと～	
■ 授業に役立つホームページ 第9回 18 NHK 週間こどもニュース	

※ **■** は、読者が教えている生徒のレベルを示します。

※本紙全体で、ルビが文字の下に付いているのは、紙や物差しなどでルビを隠して、漢字の読みの練習ができるようにするためです。

※「日本語・日本語教育を研究する」と「海外日本語教育レポート」は休載します。

編集部から

お気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、前号から表紙のイラストレーターがかわりました。第18号から10年間にわたってイラストを提供し続けてくださった村井さんが、この春に体調を崩されてしまわれたための選手交代です。村井さんの洒脱でユーモアあふれる作風は「通信」のイメージとも強く結びついていたのでお休みとなるのは残念ですが、今後は、ロマンチックな部分を残しながらも構図的には大胆な Jane-tonntu さんの絵柄を、どうぞ楽しみにしてください。

さて、「通信」ですが、今号から、18頁と誌面を少なくし、紙質も変更してのお届けとなりました。これは、郵送料を抑えつつ、冊子体での「通信」を必要とする皆様へのサービスを維持するための対策です。誌面削減のため、今号で休載した連載の1つ「海外日本語教育レポート」と、今号では最終ページに掲載された「授業で役立つホームページ」は、次号51号よりウェブサイト上でのみの掲載となる予定です。一方、次号からは、

今号で終了する「写真で見る日本人の生活」に替わり、新しいコーナーが2つスタートします。加えて、「通信」のウェブサイトも大幅にリニューアルしますので、ご利用がより便利になると思います。

というわけで、今年度の「通信」は、内容上も形態上もいろいろと変化が激しいのですが、内容的には今まで以上に充実させる所存ですので、読者の皆さまには、よろしくご理解いただきますようお願いいたします。また生まれ変わりつつある「通信」に対し忌憚のないご意見もお待ちしております。 (tt)

表紙エッセイプロフィール

中西 進 (なかにし すずむ)

国文学者。京都市立芸術大学学長、奈良県立万葉文化会館館長。『万葉集』等、古代文学の比較研究をはじめ、日本文化の全体像を俯瞰した研究・評論・著作活動を行う。『万葉集の比較文学的研究』(1970年日本学士院賞)を皮切りに『万葉と海彼』(1991年和辻哲郎文化賞)『源氏物語と白楽天』(1997年大佛次郎賞)等受賞多数。他にも近作『ひらがなでよめばわかる日本語のふしぎ』(2003年)等、著書多数。

JF日本語関連事業紹介

にほんごかんれんじぎょうしょうかい

海外の日本語教育の現状

かいがい にほんごきょういく げんじょう

『2003年海外日本語教育機関調査』結果速報

ねんかいがい にほんごきょういく きかんちょうさ けつ か そく ほう

国際交流基金 日本語事業部 企画調整課
 こくさいこうりゅうききん にほんごじぎょうぶ きかくちようせい か

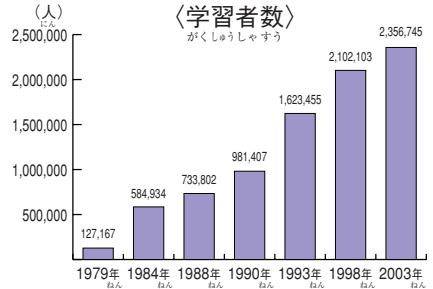
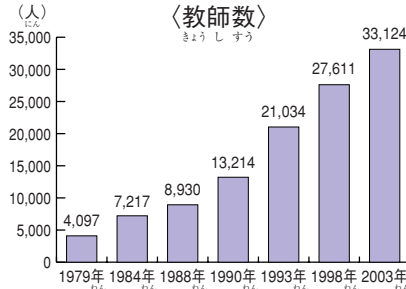
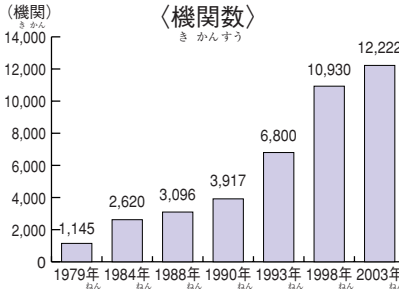
国際交流基金は、外務省在外公館、海外の日本語教師会等の協力のもとに、2003年度に海外日本語教育機関調査を実施しました。

この調査は、海外の教育機関等に調査票を配布・回収する方法で行われました（回収率は82.64%）。お忙しい中、調査にご協力いただいた方々に対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。詳細な分析、集計表、および各機関の住所等のデータは、今年度中に報告書にまとめ、市販する予定です。また、ご協力いただいた機関には、報告書（概要版）をお送りする予定です。今回は、この調査の結果について簡単に報告します（ウェブサイト [http:// www.jpff.go.jp/j/japan-j/news/0407/07-01.html](http://www.jpff.go.jp/j/japan-j/news/0407/07-01.html) もご覧ください）。なお、台湾については（財）交流協会が実施した調査のデータを使用しています。

1. 全体の状況

機関数	12,222機関(127カ国・地域)
教師数	33,124人
学習者数	2,356,745人

1979年から2003年の間に、機関数は10.7倍、教師数は8.1倍、学習者数は18.5倍に増加しました。また、前回の1998年調査と比べると、5年間に、機関数は11.8%、教師数は20.0%、学習者数は12.1%増加しました。



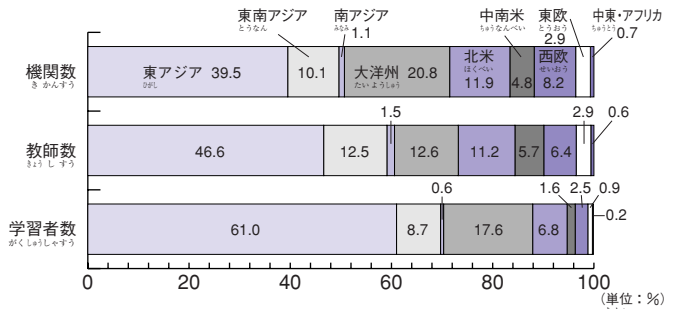
2. 地域別・国別の状況

一学習者の6割が東アジアに集中、

アジア・大洋州で9割一

学習者の地域別割合をみると、全体の61.0%が東アジアの学習者で、大洋州（17.6%）、東南アジア（8.7%）、北米（6.8%）が続きます。アジアと大洋州で学習者数の約9割を占めています。

〈機関数・教師数・学習者数の地域別割合〉

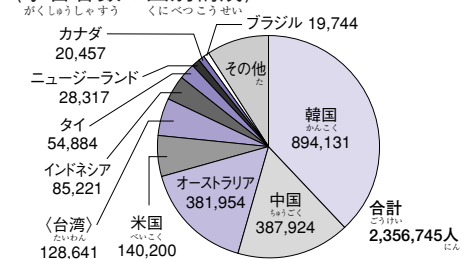


一韓国、中国、オーストラリアが学習者数トップ3一

学習者数第1位は韓国で約89万人、第2位は中国で約39万人、第3位はオーストラリアで約38万人。この3カ国で世界の学習者全体の約7割を占めています。

1998年調査と比較すると、学習者が増加した国は106カ国・地域（新規16カ国を含む）、減少した国は25カ国・地域（今回の調査で新規16カ国を含む）、減少した国は25カ国・地域（今回の調査で新規16カ国を含む）、減少した国は25カ国・地域（今回の調査で新規16カ国を含む）でした。

〈学習者数の国別構成〉



3. 教育段階別の状況

— 6割強が初等・中等教育機関の学習者 —

海外の日本語学習者の6割強(64.8%)は、初等・中等教育機関の学習者で、高等教育機関の学習者は約2割、学校教育以外の機関の学習者は約1割となっています。

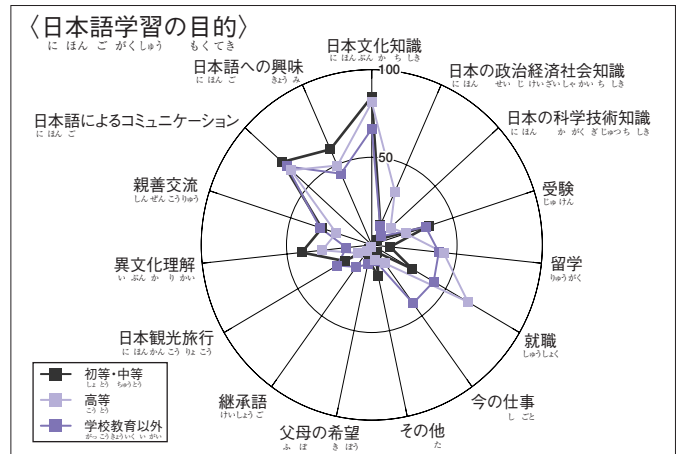
学習者数上位10カ国のうち、韓国、オーストラリア、インドネシア、ニュージーランドでは、初等・中等教育機関での学習者が大半を占め、ブラジルでは学校教育以外の機関の学習者が8割近くを占めています。中国、台湾は、高等教育での学習者の比率が5割を超えています。

4. 日本語学習の目的

— 日本文化理解、日本人とのコミュニケーション、日本語という言語への興味 —

「日本文化に対する興味」、「日本語を使ってコミュニケーションしたいという欲求」、「日本語という言語そのものへの興味」の3つが、各教育段階共通の主要な学習目的となっています。

初等・中等教育機関では、「異文化理解」と「受験準備」が、高等教育機関では「将来の就職」や「留学」が、また学校教育以外の機関では「将来の就職」「今の仕事で必要」「留学」「受験準備」の比率が比較的高くなっています。



5. 教師の状況

— 日本語教師の7割が非母語話者教師 —

海外の日本語教師30,628人(台湾を除く)のうち、日本語を母語とする教師は約3割で、約7割は日本語を母語としない教師です。

日本語母語話者教師が1人でもいる機関は4割弱で、そのうち初等・中等教育機関では約2割と低くなっています。初等・中等教育機関の、教師1人あたりの平均学習者数は100人を超えており、1機関あたりの平均教師数は少ないということがわかりました。

また、日本語教育を行っている高等教育機関のうち、日本語教師の養成のための科目を設けている機関は34カ国293機関(高等教育機関全体の13.3%)確認できました。

6. 日本語教育上の問題点

— 適切な教材の不足、教材・教授法情報の不足、施設・設備不十分 —

4割前後の機関が、日本語教育上の問題点として「適切な教材の不足」、「教材・教授法情報の不足」というリソース(ソフト)の問題と、「施設・設備が不十分」という施設(ハード)の問題をあげています。

教育段階別にみると、初等・中等教育機関では学習者に関する問題(「学習者不熱心」「学習者減少」)が、高等教育機関では教師に関する問題(「教師不足」「待遇不十分」)の比率が比較的高くなっています。

7. おわりに

国際交流基金では、今回の調査の結果を参考にしながら、各国・地域の教育事情やニーズに合わせ、より効果的な日本語教育事業を実施していきたいと考えております。また、状況の変化にすばやく対応するために、今後この調査は3年毎に実施することになりました。次回の調査は2006年を予定しておりますので、また皆様のご協力をお願いいたします。

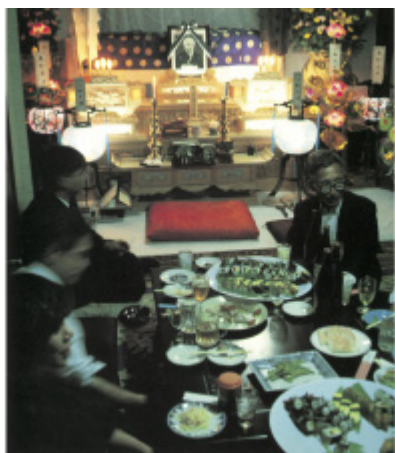
写真で見る 日本人の生活

「このたびは…」…なくなる

このコーナーでは、日本語教育用「写真パネルバンク」(国際交流基金日本語国際センター発行)を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案してきました。初級の学習者でも読めるよう、文型、単語、漢字なども、やさしいものを使っていますので、昨年実施した読者アンケートでも、「必ず読む」と答えた読者の数がとても多い連載の一つでした。しかしながら、「写真パネルバンク」そのものが、当基金が運営するウェブサイト「みんなの教材サイト」に掲載され、同パネルを利用した授業案もそのサイトに掲載されるようになりましたので、このコーナーも今号で終了することにしました。

ものごとには始まりがあると同時に終わりがあります。私たち人間も同じです。いつかは死にます。最終号では、人がなくなったときに行われる儀式…「お葬式」を中心にとり上げます(ここにあげるのは、仏教式のお葬式の例です)。

※写真下の()内の数字は写真パネルバンクの中での、この写真の番号です。



①

(4-121)

お通夜

お葬式には「お通夜」と「告別式」という二つの大きな儀式があります。写真は「お通夜」の一場面です。親しかった人や親せきなどが集まり、なくなった人について語りあいながら、一晩中遺体のそばで過ごします。

なくなった人の家族(遺族)へのあいさつは「このたびはご愁傷さまでした」です。

お焼香

お葬式に来た人は順番に祭壇の前に出て、三本の指でお香を自分の目の高さまで持ってきます。その後、お香を目の前にある香炉に静かに落としてから両手を合わせお祈りします。これを「お焼香」と言います。なくなった人を悼む気持ちを表します。



②

(5-122)



③

(4-123)

告別式

こく べつ しき

「告別式」とはなくなった人と最後のお別れをする儀式のことを言います。来た人は、お通夜の時と同じように、お焼香をあげます。告別式の最後には、遺族の代表が、お別れに来た人々に感謝の気持ちを表すあいさつをします。

出 棺

しゅつ かん

告別式が終わると、なくなった人が入っているお棺は「霊柩車」という特別の車に乗せて火葬場に向かいます。これを「出棺」といいます。



④

(4-124)

お 盆

ほん

夏になると、なくなった人の霊が家に帰るのを迎える「お盆」という行事があります。家族や親せきが集まって、飾りや食べ物を供えます。



⑤

(4-061)

資

料

東京都生活文化局「葬儀にかかわる費用等調査報告書」(2002年3月) <http://www.saveinfo.or.jp/kinyu/stat/data2003/data2003-060.pdf>によると、2001年の葬儀費用の平均は3,458,600円で、そのうち、お坊さんに渡したのは平均642,700円だそうです。

☆ 授業のヒント

今回は前回に引き続き、教室でビデオ教材をどのように使うかを紹介したいと思います。

テーマ ビデオ教材の使い方 (2)

目的 もくでき	<ul style="list-style-type: none"> ビデオ教材を使った教室活動にはどのようなものがあるかを知る。 ビデオを使った教室活動をより効果的にする方法を考える。
学習者のタイプ がくしゅうしゃ	<ul style="list-style-type: none"> 初級から上級
クラスの数 にんずう	<ul style="list-style-type: none"> 何人でも
準備するもの じゅんび	<ul style="list-style-type: none"> ビデオテープ、ビデオデッキ、ワークシートなど

前回は、ビデオの内容を理解する力をつけるための活動例とビデオの中に出てくる文法や表現、語彙などの言葉をビデオを見ながら学習する方法を紹介しました。今回は、ビデオを使って、コミュニケーション能力を高めたり、自国の文化や習慣と比較したりする活動を紹介します。

ここでは初級レベルの『みんなの日本語 I』(スリーエーネットワーク 2001) の13課の会話ビデオを例に、具体的な活動紹介をします。学習者が中級以上の場合は、そのレベルのビデオを使って応用してください。

① 誘う場面

山田：もう12時ですよ。

昼ご飯を食べに行きませんか。

ミラー：ええ。

山田：どこへ行きますか。

ミラー：そうですね。

今日は、日本料理が食べたいですね。

山田：じゃあ、鶴屋へ行きましょう。

(人が鶴屋の前に並んでいる風景と料理のサンプルがフォーカスされる)

② 注文の場面

店員：ご注文は。

ミラー：私はてんぷら定食。

山田：私は牛丼。

店員：てんぷら定食と牛丼ですね。少々お待ちください。

(画面には、お茶やしょうゆの小出し、壁に飾られた熊手が大きく映される)

店員：てんぷら定食と牛丼です。

山田：いただきます。

(食べ終わって)

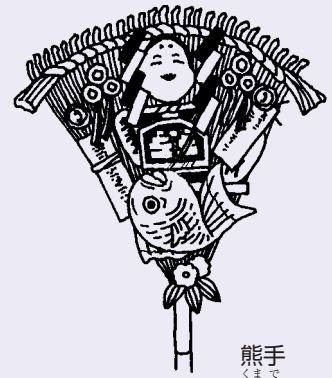
③ 支払いの場面

店員：1680円でございます。

ミラー：すみません。別々にお願いします。

店員：はい。

てんぷら定食は980円、牛丼は700円です。ありがとうございました。



熊手

◆ コミュニケーション能力を高めるための活動

ビデオの音声を消し、画面に合わせて学生たちにそれぞれの人物の会話を再現させるアフレコという練習方法を紹介します。この方法ではビデオの映像を見ながら会話をするので、学習者は実際の場面にいるように感じながら練習することができます。また、ビデオと同じ時間内に話さなければなりませんから、日本語のリズムに合わせ一定の速さで話す練習にもなります。始めは、日本語のリズムやイントネーションを身に付けるため、音声を消さずに練習するのもいいでしょう。ビデオを何度も繰り返して見せながら練習する代わりに、音声テープを使って十分に練習した後でビデオを利用してもいいです。そして最後にビデオの音声を消して、画面に合わせて会

話練習をします。

さらにビデオの会話の一部をかえて、会話をさせることもできます。ここでは、山田さんがミラーさんを誘う場面①を使ってみましょう。まず、「12時」「昼ご飯」「日本料理」「鶴屋」という単語を学習者の現実の生活に合わせてかえるように指示します。昼ご飯または晩ご飯に誘う場面にして、時間、食べたい物、店の名前を変えれば、学習者は実際に近い会話を行うことができます。ただ、ここで注意しておきたいのは、食堂での注文場面以降(②と③)は使わないようにすることです。なぜなら日本料理の店の画面を見ながら、ほかの料理を注文するのは不自然になるからです。

食事に誘う会話がスムーズにできるようになったら、この会話の型を利用して、映画やコンサート、ピクニックなどに誘う会話を練習してもいいでしょう。その場合、山田さんの最初の発話「もう12時ですよ」を「明日は日曜日ですね」のように変える必要がありますので気をつけてください。

また、ビデオの会話だけでなく映像から得られる情報も含めて内容を描写させるという活動もできます。例えば、ビデオを見ていない人にどんな会話ビデオであったかを説明するタスクなどが考えられます。

◆自分の国の文化や習慣とを比較する活動

ビデオを使って日本と自分の国の文化や習慣を比較する活動を行う場合、一番ポイントとなるのは、学習者自身にその違いに気づかせ、そしてそれがどうしてなのかを考えさせることです。教師が説明するのは簡単ですが、文化や習慣の違いにより敏感になり、教室外でも自分で観察、分析できる学習者を育てるためには、学習者自身に考えてもらうほうがよいでしょう。そのほうが、学習者も積極的に授業に参加できます。では、同じ『みんなの日本語I』の13課のビデオで何ができるかを考えてみましょう。

まず、ビデオを見せると、自国にはない珍しい物が学習者の目を引くことでしょう。ビデオを見る前に、何かわからない物が出てきたときには手を挙げるよう、学習者に指示しておきます。学習者の手が挙がったら、教師は映像を止めて物の名前を導入します。例えば13課には、商売繁盛を願って店に飾る熊手が出てきます。「熊手」という名前を導入したら、次に、それが何をす

るためのものかを考えさせます。大切なのは、それが何なのかを学習者が考えるプロセスなので、学習者のレベルによっては日本語だけでなく母語を使ってもいいと思います。始めはなかなか出てこないかもしれません。そういう時は、教師からヒントを出しましょう(例「この熊手は、何かに似ていませんか」「この熊手はお店をやっているところにあります」)。さらに、正解が出たところで、自分の国に商売繁盛を願う飾りや、習慣がな

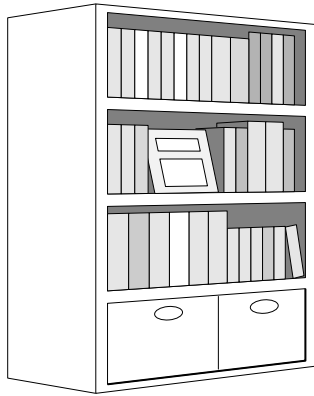
いかを考えさせます。人々の行動様式の場合も同じです。13課の場合、食堂の前で人が並んでいるシーンがありますが、日本ではこのような光景をよく見かけます。国によっては、食堂に入るために並ぶという習慣のない国もあるでしょう。また、食べる前に「いただきます」というあいさつのない国や、友達や会社の同僚と食べに行ったとき、別々に払わないで一人がおごるといった習慣の国もあると思います。学習者にはビデオを見て不思議に思った行動を挙げてもらい、どうして日本人はそうするのかを考えてもらいます。その際、自分の国ではどうするか、そしてなぜそうするのかも考えてもらいましょう。すぐに答が出ない場合には、両方の国の習慣や行動様式の良い点と悪い点を考えて出してもらいます。たとえば、「並ぶと時間がかかる」「(悪い点)」「おいしいものが食べられる」「(良い点)のように、良い点と悪い点を分けてまとめていきます。

ただ、気をつけなければならないことは、文化や習慣には、ただ一つの答や正解があるとは限らないことです。ですから、学習者から納得できる答が出た場合には、「そうかもしれませんね。よいことに気がつきましたね」と受け入れましょう。そうすることによって、学習者は徐々に自分で何かわからない物や不思議な習慣や行動を見たり、経験したりしたときに、自分で考え分析するようになります。

最後に、事前準備として、ビデオを通して学んでもらいたいものを明確にしておくことと、教師自身がわからないものがある場合は、日本人に聞いたり、インターネットや本などで調べておくことも大切です。

参考文献

- 『視聴覚教材とその使い方』NAFL Institute 日本語教師養成通信講座
- 『視聴覚メディアと日本語教育』NAFL Institute 日本語教師養成通信講座



本ばこ

ほん

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

一新刊教材・図書紹介

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

- ※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

場面や相手に合わせて誤解なくコミュニケーションをしたい人に

『聞いて覚える話し方 日本語生中継・中～上級編』

データ

- 1 梶本総子、宮谷敦美 2 くらしお出版 〒112-0002 東京都文京区小石川3-16-5 TEL.03-5684-3389 FAX.03-5684-4762 URL www.9640.jp
3 2004年2月25日 4 4-87424-300-2 5 B5判88ページ 6 2,310円 7 CD付き



日本語の発音練習に役立つ

『1日10分の発音練習』

データ

- 1 河野俊之、串田真知子、築地伸美、松崎寛 2 くらしお出版 〒112-0002 東京都文京区小石川3-16-5 TEL.03-5684-3389 FAX.03-5684-4762 URL www.9640.jp 3 2004年1月10日 4 4-87424-286-3 5 B5判129ページ 6 2,100円 7 CD2枚付き



日本語で日常生活はできて、日本社会で使われる生の日本語から意図やニュアンスを理解することや、場面や相手に合わせた表現で会話するのは難しいものです。この教材は学習者に豊富な会話場面を提示し、色々な聞き取り練習を通して表現力を身につけさせることを目的にしています。聞く力・話す力を高めることはもちろん、クラスでのディスカッションの材料にすることもできます。取り上げている機能は「伝言・勧誘・許可・情報・依頼と指示・文句・提案・感想」に関するものです。「勧誘」を例に課の構成を見てみましょう。

- ①こんな時どう言いますか：「一緒に映画を見に行きたいなあ」「日曜日ドライブに行こうか」などの表現が、誰が何をするときのものか考えます。
②聞き取り練習Ⅰ：勧誘場面の3種類の会話を繰り返し聞きながら人間関係や内容、結果を聞き取ります。内容に合う言葉を選んだり、使われた表現を書き取ったり、同じような場面で使える他の表現も考える、などのタスクがあります。一度聞いても分からない人のために、確認すべき単語が挙がっています。
③聞き取り練習Ⅱ：上司からの誘いに関するインタビューを聞き、誘われた内容、返事、誘われた時の気持ちを聞き取ります。
④ポイントリスニング：誘いへの返事だけを聞き、表現意図を聞き取ります。
⑤重要表現：表現を解説・整理しています。
⑥ロールプレイ：会話の続きを作成したり、勧誘の練習をしたりします。

CDの会話はごく自然なスピードです。ルビ付きスクリプト、単語表(英語・中国語・韓国語・ポルトガル語)もあります。別売りの教師用マニュアルには活動のヒントや指導のポイントが載っています。

日本語のアクセントやイントネーションを正しく使い分けられるようになりたい。しかし、テープを聴いて練習するだけではその微妙な違いがよくわからない。そのような学習者が多いのではないのでしょうか。

この教材の特徴は「プロソディグラフ」を使って、日本語のアクセントやイントネーションなどを図の形で認識できることです。

この教材は全部で8課まであり、各課は「メイン会話」「練習0」「練習1」「練習2」の順で構成されています。「メイン会話」には会話文のほかにその課で学習すべき項目と「ここに注意！」のコーナーがあります。発音するときに注意すべきところが「ここに注意！」ですぐわかります。

「練習0」はアクセントやイントネーション、長・短音などを聴きながら質問に答える練習です。その解答もついています。「練習1」は基本的な文、単語の発音をするための練習です。「練習2」は「練習1」の内容を発展させた会話文などの発音をするための練習です。

メイン会話と各練習の文や単語にはすべて「プロソディグラフ」が付いているので、発音練習をするときに、学習者は日本語を聞きながらアクセントとイントネーションを自分の目で確認できます。また、指で「プロソディグラフ」をなぞって、発音の特徴をつかむこともできます。さらに、音声だけでアクセントやイントネーションを推測する練習をしたい場合は「プロソディグラフ」がついていない「練習1」「練習2」もあります。

各課のメイン会話にはイラストがあり、その会話の内容を表しています。また、CDが2枚ついています。



マルチメディアの映像で場面や状況を学ぶ

『新日本語の中級 会話ビデオ・DVD』

データ

1 企画・著作：(財)海外技術者研修協会、製作：(株)毎日映画社 2 販売：スリーエーネットワーク
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3 (松栄ビル) TEL.03-3292-5751 FAX.03-3292-6195
URL www.3anet.co.jp 3 2004年4月 4 ビデオ 4-88319-297-0 (NTSC.注PALにはISBN番号がなし) DVD 4-88319-299-7 5 67分 6 ビデオ NTSC 8,400円、PAL 10,500円 DVD 9,450円
7 スクリプト付き

2000年に発行された『新日本語の中級本冊』の会話文を映像化したもの。全20課の会話1、2がそれぞれ収録されています。『新日本語の中級』では、「頼む」「許可をもらう」などの言語機能を中心に課が構成されています。実際のコミュニケーションの場面でこのような言語機能を達成するためには、例えば、どのように日

本語で頼んだり、許可を求めたりするかイメージできるようにする必要があります。そのためには、ビデオ・DVDによる映像を使った学習がたいへん有効でしょう。学習者は映像によって、日本の場面、会話をしている人の態度、行動、表情など多くの情報を得ることができます。

各課の映像には、日本で働きながら生活している外国人が実際にに出合いそうな会社、寮、さらに電車の中や店などの日本の街の場面が撮影されています。さらに、場面を理解する上で必要な物や場所の映像も会話の途中に入っているように、海外の教室では日本事情を教える際にも使うことができます。

この教材はビデオだけでなくDVDもあり、機材や目的によってどちらかを選べます。DVDでは、各課の頭出しが簡単なほかに、字幕選択操作により日本語の字幕をつけたり消したりすることもでき、会話で言っていることを文字

で確認できます。このように一つの教材がいくつかのメディアで提供されたこと

で、様々な場所で利用できるようになりました。教室以外で、コンピューターで見て自習するなどの利用も考えられます。



初級から中級への橋渡しー豊富なイラストで自然な会話力を身につける

『日本語集中トレーニング』

データ

1 星野恵子、遠藤藍子 2 アルク 〒168-8611 東京都杉並区永福2-54-12/TEL.03-3327-1101 FAX.03-3323-2021 URL www.alc.co.jp
3 2004年1月18日 4 4-7574-0749-1 CD 4-7574-0750-5 5 B5判224ページ CD73分
6 2,520円 CD 2,625円

「初級の勉強が終わったのに、勉強した文やことばを会話で使うことができない。」「相手の言うことばが聞き取れない。」「中級クラスで勉強しているが、基礎的な力が足りない。」そんな悩みをもっている人はいると思います。この本はそうした悩みをもっている人のために作られました。初級で習った文法や文型が、実際のコミュニケーションに結びつくように様々なトレーニングが用意されています。

内容は、談

話を重視し、実用性が意識されています。日本で生活する外国人学習者に必要と思われる場面や話題が選ばれています。日本に住んでいない学習者にも理解できる場面が多いです。また、コミュニケーション機能や人間関係などの社会的側面も重視されています。

各課の構成は、①ストーリー・ピクチャー：話の状況や流れを想像する、②会話：CDを聞いて内容を理解する、③ナレーション：ペアワークによる聞く練習、言う練習、④インタビュー：ペアワーク、⑤ことばの整理：課のポイントとなる文法・文型・表現の意味や用法の確認と運用練習、⑥アクティビティ：モデル会話とスキットを利用してペアあるいはグループで練



習、⑦文字への挑戦：読む練習、書く練習、漢字うでだめし、コラムという順番になっています。イラストが豊富で、場面を想像しながら自然な会話力がつくよう工夫されています。

また、詳しいシラバス表や漢字一覧が付録として巻末に付いていますので、副教材として教師が利用する際にも大変便利です。別売のCDを利用して、独習することもできます。



P. 16



P. 17



P. 20



P. 21

P.12~13は以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

長坂水晶、王 崇梁、古川嘉子、久保田美子、(執筆順)
ながさき みあき おう そうりょう ふるかわよしこ くぼ たみこ しつびつひら

初級からの日本語スピーチ

— 国・文化・社会についてまとまった話をするために —

Speech for Basic Level Japanese

— for organized oral presentation of one's country, culture, and society —

著者：独立行政法人国際交流基金
関西国際センター

I S B N : 4-89358-564-9

出版社：凡人社
刊行年月：2004年3月

判型・ページ数：B5版 166p
定価：2,205円(税込み)
その他：CD付き



国際交流基金関西国際センターでは、初級段階から①自分や国、社会、文化に関する特定の話題についてまとまった話ができるようになる、②特定の話題についての質問に答えることで口頭能力を伸ばす、③効果的な発表のための技術身につけること、を目的に、成人学習者用教材『初級からの日本語スピーチ — 国・文化・社会についてまとまった話をするために—』を出版しました。教材の概要と使い方を簡単にご紹介します。

<教材の特徴>

①「まとまった話をする」ための基礎力を培う

この本では、初級段階から「まとまった話をする」ことを体験し意識化させることを目指しています。一般に初級段階の口頭表現指導では文法項目確認のために、文レベルの練習に終始する傾向がありますが、成人の学習者の場合には初級段階であっても知的な話題でまとまった話をする事で達成感が得られ、また学習効果も高いのではないかと考えられるからです。

②スピーチ作成プロセスを重視する

この本は、スピーチの成果だけでなく、その作成プロセスを大切にしているので、課の構成に沿って学習をすすめれば、スピーチを作成することができます。また、「Q&A」→「作文」→「スピーチ」という異なった形態で同じ内容について繰り返し発信することにより、それぞれの学習者にとって必要な語彙や表現を定着させることができます。

③知的な話題で話す

この本は、初級学習者が対象ですが、自国の文化や社会、歴史など、スピーチとしてだけでなく日本人とのつきあいの中でも役立つ話題を選んでいきます。学習者のニーズや興味、授業の回数などコースデザインに合わせて選んで使ってください。

<本書の構成>

この本は、ねらいと課立ての違いによって2つのstepからなっています。

Step1	本教材の構成・内容	Step2
意味のまとまりの意識化 (基本的なスピーチの構成を学ぶ)	ねらい	より複雑な談話形成のための基礎 (より複雑なスピーチの構成を学ぶ)
話題による課立て	課立て	談話展開のパターンによる課立て
モジュール式		モジュール式
1. まつり 2. 地理、民族、宗教 3. 私の仕事 4. 観光 5. 歴史 6. 私の国と日本の関係 7. 結婚 8. 産業と貿易 9. 経済と人々の生活	目次	10. 対比する「習慣の違い」 11. 因果関係1「教育の問題」 12. 変化を説明する「日本(日本人)のイメージ」 13. 分析する「人間関係」 14. 因果関係2「社会問題」 15. 出来事を語る「いやな体験」

<本書を使った学習活動の例>

以下のような流れで学習活動を行うことができます。

1 談話展開の把握



各課の話題についてどんなことを話したいか、どんな順番で話したいか、クラスで話し合います。

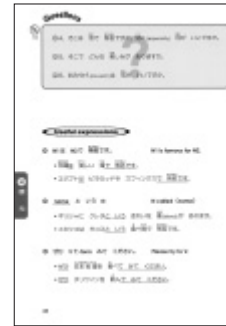
学生の意見を聞いた後で Flowchart でスピーチの構成や談話に関わる表現（「まず_____の地理や気候についてお話ししましょう」etc.）を確認してください。



2 話題についての Q&A



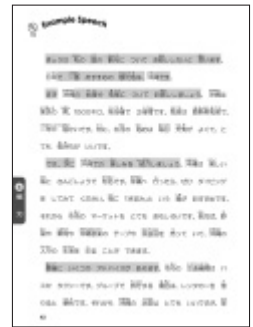
Questionsの質問に答えます（質問はFlowchartの流れに沿っています）。Useful expressionsやReference vocabularyの語彙や表現を参考にすれば簡単に答えることができます。その際、クラスで意見交換をさせて内容を深めることが大切です。



3 談話展開の確認



Example speech を聞いて、自分のスピーチのイメージ作りをします。



4 クラス外 個別活動



授業が終わったら、学習者はスピーチ原稿と視覚資料を準備します。

教師は学習者がつくってきたスピーチ原稿をチェックして、モデルテープを吹き込みます。

学習者はモデルテープを聞きながら発音練習をします。

5 スピーチ発表



毎回数人の発表者がスピーチをします（ビデオに撮影するとフィードバックする時に役立ちます）。

発表が終わったら、内容について質疑応答しましょう。

※日本人のゲストを迎えて発表会を開くと、学習活動の成果が試せます。

6 フィードバック

スピーチ発表についてよかった点や悪かった点を話し合います。下のような評価シートを作っておくと便利です。

評価項目		◎/○/×	コメント
内容	スピーチの構成		
	スピーチの内容		
	正確さ（文法、語彙）		
	視覚資料		
発表	発音（声の大きさ、スピード、ポーズ）		
	発表態度（身振り、アイコンタクト）		
	視覚資料の見せ方		
	スピーチ後の質疑応答		

初級レベルであっても話す内容を重視すること、話す内容が短くても話題として完結させることで得られる達成感は、学習意欲の向上に結びつくのではないのでしょうか。お使いになってのご感想やご意見をぜひお聞かせください。

本教材、コースデザイン、クラス活動に関するお問い合わせやご相談があれば、jpf-kansai@jpf.go.jp までお寄せください。

文法をやさしく

ぶん ぼう

第9回 Vと～

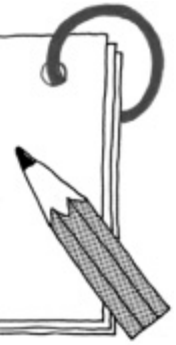
だい かい

学習段階：初級後半

がくしゅうだんかい しょきゅうこうはん

キーワード：複文・非過去・意志性・モダリティ

ふくぶん ひかこ いしせい



1. 非過去の「Vと～」

ひかこ

今回の複文は「Vと～」の文です。

こんかい ふくぶん

みなさんの初級教科書では、「Vと～」の複文を導入するとき、どんな使い方を紹介していますか。この複文は、道案内や、機械の使い方の説明、天気や季節のしくみを表すときの表現で学習させることが多いようです。その際、ふつう、〈1〉～〈3〉の例文のような、非過去の文だけが扱われます。

- 〈1〉 橋をわたると、公園があります。
- 〈2〉 お金を入れて、赤いボタンを押すと、ジュースが出ます。
- 〈3〉 雨が降らないと、よいお米ができません。

非過去の「Vと～」は、条件表現の中では、「Vたら～」、「Vば～」より早く勉強する教科書が多いようですが、意味が似ているため、「たら」や「ば」の文を勉強すると、混乱して間違いが出やすくなります。

今回は、非過去の「Vと～」の文の作り方のルールを整理して、この表現が持っている意味の特徴や、使いやすい場面を考えてみたいと思います。

それではいつものように、この表現が使われている例を読んでください。次の文章は、チェスによく似た日本の「将棋」のプロが書いた文章から引用しました。この人は、将棋以外に、文章を書く仕事もよくします。引用した部分には、その仕事のように書かれています。

私はいまだに手書きで、コクヨの原稿用紙にコツコツと書いている。…(中略)…いつも「将棋指しは目が命。パソコンを長時間見ていると疲れるので、手書きで書くんだ」といっている。



いまだに……いまでも、まだ
コクヨ……文房具の会社の名前
コツコツと……少しずつだが、着実に
将棋指し……将棋を指す人、将棋 player、
ここでは将棋を仕事にしている人
目が命……目が(命と同じように)一番大切な
先崎学『まわり将棋は技術だ』(文藝春秋) p.179 1.10～13
(下線は荒川・木山による)

「将棋指し」である筆者は、文章を書くときにパソコンを使わないことについて、いつも同じ理由をあげています。パソコンを長時間使って目が疲れることを、法則のように決まっている原因と結果と筆者はとらえていて、目が疲れないように、いつも手書きで書いているといっています。

この、法則のように決まっている原因と結果という点に注意して、例文の〈1〉～〈3〉をもう一度見てください。

たとえば、〈1〉の道案内では、だれが、いつ、その橋をわたっても必ず公園があります。〈2〉の説明も同じです。赤いボタンをだれが押すか、いつ押すかによって「ジュースが出る」という結果が変わることはありません。

しかし、ルールや習慣ではなく、これからどんな行動をするかという話し手の意志を表す文では「Vと～」は使えません。〈4〉と〈4'〉を比べてみましょう。

- 〈4〉 毎朝、会社へ行くと、Eメールを送ります。
まいあさ かいしゃ い おく
- 〈4'〉 明日、会社へ行くと、Eメールを送ります。(??)
あした かいしゃ い おく

文末は、同じ「送ります」ということばですが、〈4〉のように「毎朝」ということばといっしょに使うと、習慣を表します。〈4'〉のように「明日」といっしょに使うと、話し手の意志を表すので使えません。この意志性については、第7回の「VためにV/VようにV」、第8回の「Vたら〜」の説明にも出てきました。意志性は、複文について勉強するとき、大切なキーワードです。

2. 前件後件の関係と、文末のモダリティ

前件と後件の意味関係に注意して、以下の例文を読んでください。

- 〈5〉 風が吹くと、木の葉がゆれます。
かぜ ふ こ は
- 〈6〉 運動をすると、おなかすきます。
うんどう
- 〈7〉 カップにお湯を入れて3分待つと、ラーメンがで
きます。
ゆ い ぶん ま
- 〈8〉 「■」のボタンを押すと、テープがとまります。
(テープレコーダーやラジカセなどの説明)
- 〈9〉 わたしは勉強中に眠くなると、いつもコーヒを
飲みます。
べんきょうちゅう ねむ
- 〈10〉 次の新幹線で帰ると、東京に8時に着きます。
つぎ しんかんせん かえ とうきょう じつ
- 〈11〉 駅を出ると、売店があって、そのとなりにタクシー
乗り場があります。
の ば

これらの例文では、前件の出来事、つまり、「風が吹く」ことや「運動をする」ことがきっかけとなって、後件が結果として成立しています。後件は、前件の結果として自然に起きるとか必ず起きると考えられていることです。前件が成立してから、後件が成立するという順番になります。〈5〉～〈8〉のように一般的などこでもだれにでも繰り返す起きることもあれば、〈9〉～〈11〉のように特定の人やものや場所に限っていてもあります。「1.」で「法則のようにきまっている原因と結果」と書いているのは以上のような意味です。一般的な法則や習慣について話すとき、道案内や道具の使い方の説明などによく使われる表現です。

次に、文末の表現に注意してみましょう。非過去の「Vと〜」の文では文の終わり方にルールがあります。〈12〉～〈15〉を見てください。

- 〈12〉 本を読むと、返してください。(??)
ほん を 読む と 返す ください
- 〈13〉 お酒を飲むと、運転してはいけません。(??)
さけ の を 飲む と 運転 してはいけません
- 〈14〉 明日晴れると、テニスをしましょう。(??)
あした は 晴れる と テニス を しましょう
- 〈15〉 明日晴れると、洗濯します。(??)
あした は 洗濯 します

聞き手が動作をするかしないかに影響を与えるような言い方〈12〉〈13〉、話し手と聞き手がいっしょに同じ動作をするように誘う言い方〈14〉、話し手自身がこれから意志的動作をすることを表す言い方〈15〉では、非過去の「Vと〜」の文が使えません。〈12〉から〈15〉の例はすべて、「Vたら〜」の文に変えると、正しい文になります。

話し手が聞き手の意志に働きかけたり、自分の意志を表したときは、非過去の「Vと〜」の文を作ることはいけません。〈12〉から〈15〉の文にはこのような制限はありません。

クイズ

文法的に正しい文はどれですか。

- (1) 今度長い休みがとれると、沖縄が北海道に行きま
しょう。
こんどなが やす おきなわ ほっかいどう い
- (2) 頭が痛いときは、この薬を飲むと、なおります。
あたま いた とき 薬 の
- (3) 国に帰ると、手紙をください。
くに かえ て がみ
- (4) 今晚友だちが遊びに来ると、勉強ができなくなります。
こんばんとも あそ べんきょう
- (5) お祭りの季節になると、大勢の人が田舎に帰ってき
ます。
まつ きせつ おおぜい ひと いなか かえ
- (6) 海で泳ぐと、いつも水着 (swimming suit) を着ます。
うみ およ みずぎ き
- (7) 子どものころの写真を見ると、いつも友だちのこと
を思い出します。
こ しょうしん み とも おも だ

参考文献

西口光一『基礎日本語文法教本』(2000) アルク p.189-191
にしぐちこういち きそ にほんごぶんぽうきょうほん
蓮沼昭子ほか『日本語文法セルフマスターシリーズ7.
はすぬまあきこ にほんごぶんぽう
条件表現』(2001) くろしお出版
じょうけんひょうげん しゅおはん

(L) (S) (A) (Z) : ぎょうとろく

「文法をやさしく」のコーナーは今回で終わります。次号からは新しい文法のコーナーが始まります。どうぞお楽しみに。

担当者：荒川みどり (日本語国際センター客員講師)、木山登茂子 (日本語国際センター専任講師)

授業に役立つホームページ

第9回 NHK週間こどもニュース

今回はNHK(日本放送協会)総合テレビで毎週放送している「NHK週間こどもニュース」のWebサイトを紹介します(図1)。

(<http://www.nhk.or.jp/kdns/>)



図1 「NHK 週間こどもニュース」トップページ

この番組は、日本や世界で報道された主なニュースを一週間まとめて、こども向けに伝えているので、文章と内容は普通のニュースと比べると、日本語学習者にとって分かりやすいものになっています。

「世の中まとめて一週間」をクリックすると、画面の下のほうに年ごとのボタンが表れます。見たい年のボタンをクリックすると、その年に「週間こどもニュース」で放送されたニュースが各週5つずつ、タイトルと1~2行程度の文で紹介されています(図2)。難しい文型や文字を使っていないので、初・中級の日本語学習者でも読めるでしょう。

放送日	放送内容
'04/6/12	ナイター中継のため放送おやすみ
'04/6/5	① 家族とはどこで会える? 5月30日、5名被害者警察さんと、政府要人会談。 22時から番組放送へ
	② どうしてこんなことに 1日、同級生にナイフで切りつけられ、16歳児亡くなる。
	③ とりあえずの政府 1日、イラク暫定政府メンバー改まる。
	④ まだ隠していた 2日、三菱、乗用車で男性の死。
	⑤ 約束 守られた 4日、亡くなった記者横田さんの意志、イラクの負傷少年英日。

図2 「世の中まとめて一週間」のニュース

これらのニュースを授業で扱う場合は、教師が扱いたい内容をコピー&ペーストでWordに貼り付け、プリントアウトして配布し、学習者に読ませてからその内容や表現を確認することができます。ただし、それぞれのニュースは要点しかまとめられていませんので、内容によっては分かりにくいものもあります。学習者の日本語力が中級以上でWebサイトを見られる環境にいる場合、関連したニュースをこのコーナーの第8回で紹介した最新ニュースのサイトで調べる課題を出し、5W1Hなど、より具体的なニュース内容や感想について話ができるとよいでしょう。

ニュース・サイトのURLはこのページで紹介した「授業に役立つホームページ」のリンク集(<http://urawa.pro.tok2.com/tsushin/>)を見てください。

また、「NHK週間こどもニュース」にはニュースで分かりにくいことや普段日本人が知っているつもりで知らないことなどについて解説するコーナー「今週のわからん」もあります。たとえば、いま日本で話題になっている年金問題や拉致問題なども取り上げて、分かりやすい文章で解説・整理しています。中級以上のクラスの読解教材としても使えるのではないのでしょうか。

このほかに、小・中学生向けのニュース・サイトを以下で紹介しますので、併せて使ってみてください。

◎毎日小学生新聞

ニュースのことばなど、記事はすべてルビつきです。

<http://www.mainichi-msn.co.jp/shakai/edu/maishou/>

◎こどもアサヒ <http://www.asagaku.com/>

『日本語教育通信』 第50号

2004年9月発行

編集・発行 独立行政法人 国際交流基金

日本語事業部企画調整課

〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32

アーク森ビル21F

The Japan Foundation

Planning and Coordination Div.,

Japanese - Language Dept.

(Ark Mori Bldg. 21F, 1-12-32 Akasaka

Minato-ku, Tokyo 107-6021, Japan)

TEL. 03-5562-3525 FAX. 03-5562-3498

E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Japan Association for Cultural Exchange

(ACE Japan)

(表紙イラスト: jane-tonntu) 古紙100%再生紙使用

このコーナーの担当者: 王 崇梁、根津 誠 (日本語国際センター専任講師)